

本号 Topics では、今月 13 日に開業式典が行われ、本格的に商業操業が開始したインドネシア・ジャカルタの新コンテナターミナル(新プリオク港)の最新情報につき、弊社社員が実際に訪問して確認した情報を添えてお届けします。

1.新プリオク港の概要

インドネシア首都ジャカルタのゲートウェイとなるタンジュンプリオク港(2014 年コンテナ取扱量 650 万 TEU で世界 22 位、東京港は 500 万 TEU 規模)では恒常的にコンテナ貨物が滞留しており、その混雑緩和策として、三井物産・日本郵船・インドネシア港湾公社(IPC)、PSA International(シンガポール)の共同出資による合併会社 PT. New Priok Container Terminal One (NPCT1)により新コンテナターミナルとなる新プリオク港を立ち上げ、コンテナ貨物の取扱能力の増強が図られました。

新コンテナターミナルは、年間コンテナ取扱量は約 150 万 TEU、全長 850m、喫水 16m と、13,000TEU クラスの大型コンテナ船にも対応できるターミナルであり、今月 13 日にはジョコ・ウィド大統領が訪問しての開業式典が開催され、本格的な商業操業に入りました。

現在のタンジュンプリオク港のメインコンテナターミナルである JICT から東へ

約数 km 離れたゲートを抜けて、1.7km のアクセスブリッジを利用してコンテナターミナルのゲートに向かいます。弊社社員が訪問した 9 月 14 日時点では、ガントリークレーンは 6 基、遠隔自動トランスファークレーン(RTG)は 13 基でしたが、近々それぞれ 2 基、7 基が追加導入される計画です。当日は、コンテナ船が着岸しており、本船への積込作業が行われていました。

本ターミナルは、将来的には欧州や東アジアから直接大型船が寄港することも想定しており、政府の支援を得ながら国際海運のハブ拠点にしていくことを目指しています。

また、今回稼働のターミナルはフェーズ 1 としており、今後もフェーズ 2、3 として追加のコンテナターミナルも増設し、最終的には 411 ヘクタールの敷地に 7 つのコンテナターミナルと 2 つの石油製品ターミナルからなる巨大港となる計画で、タンジュンプリオク港全体としての年間処理能力は 1,300 万 TEU 規模と一大コンテナ基地になると見込まれています。



オフィス展示の新プリオク港・全体完成模型図

(写真: 弊社社員撮影)



新プリオク港のコンテナターミナルと出航するコンテナ船

(写真: 弊社社員撮影)



新プリアク港開業式典にて視察するジョコ大統領(右から3番目)

(写真:NPCT1 提供)

2. タンジュンプリオク港の最新動向

前述の通り、タンジュンプリオク港では、処理能力を超えるコンテナ貨物の滞留により多額の保管料負担やリードタイムの遅れなどが発生、インドネシアに進出する企業にとって悩ましい問題となっています。2015年6月にジョコ大統領が港湾を視察した際のコンテナ滞留時間は平均約4.7日要しており、マレーシアの3日やシンガポールの1.5日と比較しても国際物流の競争力に多大なる影響を与えるものとして、短縮化することが喫緊の課題となっていました。

そのため、政府は関係省庁、国営企業を含む機関が緊密に連携を取り組むよう指示した結果、税関業務の改善やフリータイム(無料保管期間)を超えたコンテナ貨物に罰金を科すなどの対策が実行され、更には本年3月より保管期間1日を過ぎた貨物には一挙に超過保管料を科すなど、本年3月に3.6日まで短縮した滞留期間がどこまで短縮されるか注目されています(現地日系フォワーダーからの情報によれば超過



建設工事中のタンジュンプリオク港へのアクセス道

(写真:弊社社員撮影)



TOKIO MARINE
NICHIDO

東京海上日動火災保険株式会社

保管料の上昇率が高すぎて問題となったため、僅かに緩和された経緯があるようです。

また、港湾近隣の渋滞解消を狙った「高速道路へのアクセス道」が急ピッチで建設中、過去に計画が延長した経緯はありますが、本年中にも全面開通を予定しています。

3. パティンバン新港について

本年4月22日号 Topics にて、港湾渋滞の改善が期待されるパティンバン新港の計画をお届けしましたが、実際にジャカルタ中心地から東方約150kmに位置する同港の建設予定地と推測される海岸地区を視察しました。

ジャワ島の大動脈であるチカンベック高速道路を抜けてからの国道1号線約60km区間は、片側2車線の舗装道路であり、支障なくスムーズに移動できましたが、新港建設予定へのアクセス道と推測される約8km区間の未舗装道を抜けると、海水浴や釣りを楽しむ地元民が集まる光景が見られました。



パティンバン新港建設予定地と推測される海岸地区
(写真: 弊社社員提供)

JICA 報告によれば、来年7月までにフィージビリティ・スタディを完了させ2018年より新港の建設工事を開始、2019年には25万TEU規模の一部開業を目指す方針とされていますが、一部報道ではインドネシアの国家開発企画庁が、完全稼働については2021年にずれ込むとの見解もあり、新港開業による渋滞緩和については、当面先のことといえそうです。



本 Topics に関するお問い合わせ、ご意見、ご感想等ございましたら、弊社営業担当までお寄せください。編集にあたっては万全の注意を行っていますが、本 Topics 情報の正確性を保証するものではなく、これにより生じたいかなる損害に対して弊社は一切の責任を負わないものとします。

船舶・貨物・運送の保険の情報サイト「マリンサイト」

http://www.tokiomarine-nichido.co.jp/hojin/marine_site/index2.html